

円借款

Q&A



円借款についての基本的な事柄を分かりやすくQ&A型式でまとめました。

Q 円借款とはなんですか？

A 開発途上国に対し、低利かつ長期の緩やかな条件で開発資金を貸し付けるものです。

国が発展していくためには、経済社会基盤の整備が欠かせません。そのために必要な資金を援助し、開発途上国が経済的に自立するために欠かせない自主性を支援する、それが円借款の大きな目的です。円借款の実施は国際協力銀行が担当しています。

Q 円借款の意義とはなんですか？

A 円借款には以下のような6つの意義があります。

1. 開発途上国の自主性（オーナーシップ）の促進

円借款は返済義務を伴うことから、開発途上国は円借款の資金を無駄なく活用し、経済や社会の開発・発展を効率的に達成するための努力をします。このように、開発途上国の自主性を高める効果があります。

2. ミレニアム開発目標への対応

円借款は、開発途上国から事業資金が返済されることから、ミレニアム開発目標の達成に向け、多くの資金を必要とする大型事業に対し、国民負担が少ない形で支援することができます。

3. 持続性への貢献（効果的・効率的な開発投資への貢献）

開発途上国にとっては、投資コストの回収を図ろうというインセンティブを持つ契機になり、開発事業の持続性を確保しようとする努力を促進し、ひいてはミレニアム開発目標の達成とその持続性にもつながります。

4. 依存から自立への橋渡し

開発途上国の発展のための開発資金の形態は、贈与に依存した形から、譲許的借款の活用、そして民間投資や市場資金に基づく形へ移行し、最終的には開発援助から卒業することが望めます。円借款は、民間資金では対応しきれない資金ニーズを満たすことにより、開発途上国の自立へのプロセスを支援することができます。

5. 資金の安定性

円借款は、継続した資金の供与が可能なことから、安定的で予測可能性の高い開発資金として機能します。

6. 開発途上国との関係強化

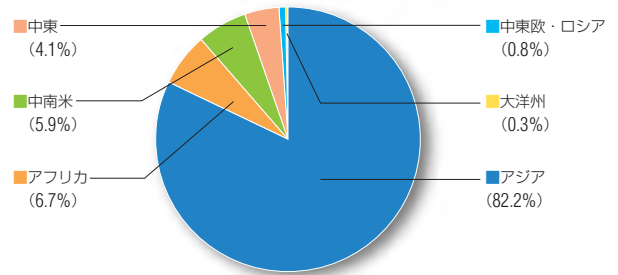
円借款は、わが国と開発途上国政府との合意に基づき、資金の貸付、事業の実施、返済等の長期的な関係が続きます。そのため、円借款を通じて開発途上国との長期的かつ安定的なパートナーシップを築くことができます。

Q 円借款の対象となる地域は？

A アジアを中心に全世界99カ国に及びます。

国際協力銀行は、2006年度末までに99カ国の開発途上国に対して円借款を供与してきました。歴史的、地理的、経済的なつながりを反映し、アジア地域が中心となっています。

■円借款地域別承諾累計（1966年度～2006年度）



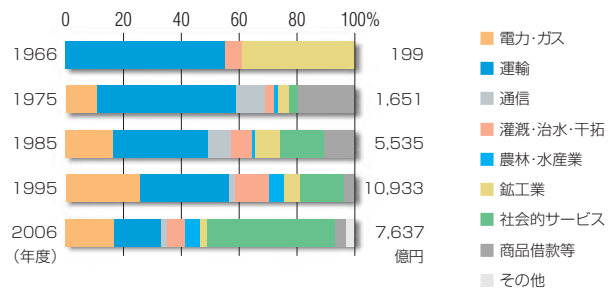
Q 円借款の対象となる分野は？

A 経済社会の基盤整備を中心に、貧困対策、環境改善・保全等も支援しています。

開発途上国の経済発展には、その土台となる経済社会の基盤整備が不可欠であることから、円借款では、電力・ガス、運輸、通信、農業等、経済インフラを中心に支援しています。近年では、地球規模問題、環境保全、人材育成、貧富の格差の拡大等、多様な開発課題に対応する

ため、上下水道、保健・医療、教育等の社会的サービス、地方部・辺境地の貧困層への支援も増加しています。

■円借款部門承諾状況



Q 貸付の条件は？

A 低金利で返済期間の長い緩やかな貸付条件となっています。

円借款の貸付金利は、2006年度に承諾されたもので平均1.03%、平均返済期間は33年8ヵ月と、低利・長期になっています。（返済期間には、元本返済が不要な

据置期間9年9ヵ月が含まれています）近年では、地球環境保護、人材育成、中小企業支援、平和の構築に対する取組みを支援するため、優先条件を導入したり、日本企業の技術を活用するための新たな特別金利を導入したり、特に所得の低い国等に対する無利子近似の円借款を導入するなど、円借款のさまざまな需要に応えるための工夫が行われています。

Q 円借款の規模と支援金額は？

A 2006年度の円借款の承諾実績は、77件、7,637億円です。

■円借款承諾額の推移

